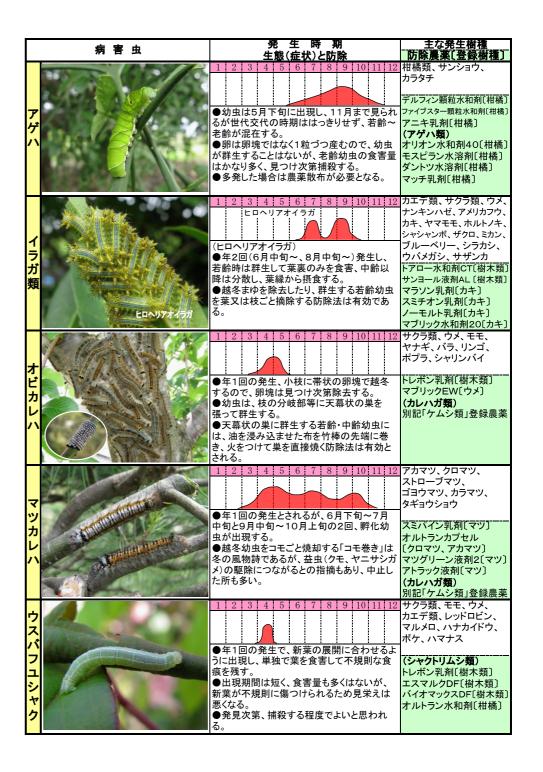
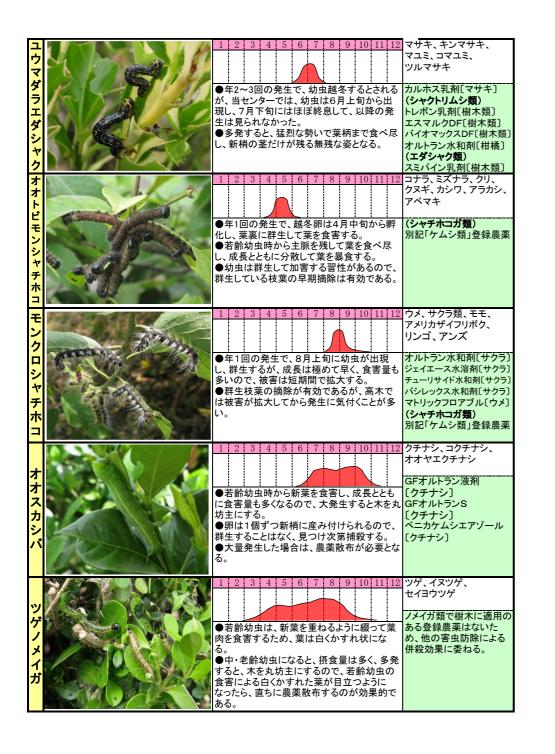
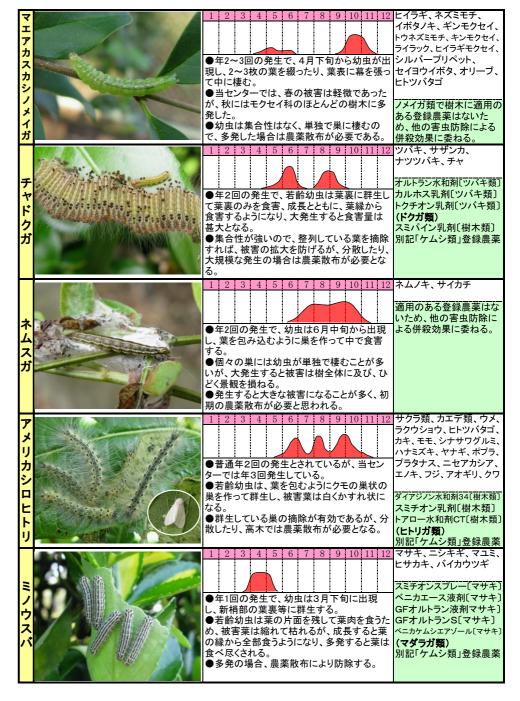
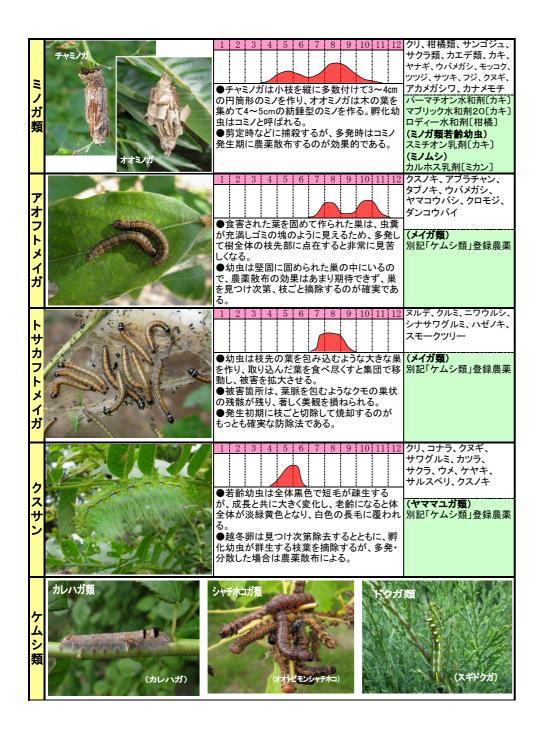
緑化木主要病害虫の

22 /- EE 10			
	病 害 虫	発生時期 生態(症状)と防除	主な発生樹種 防除農薬[登録樹種]
オトシブミ類	クロケシツブチョッキリ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 クロケシツブチョッキリ (クロケシツブチョッキリ) ●産卵や摂食で新梢や花蕾、葉柄を傷つけるため、新梢や花蕾は黒く乾固して枯れる。 ●新梢の萎凋に気付いたら、成虫を捕殺又は農薬散布により駆除する。	サルスベリ、バラ、 ウバメガシ、ハマナス、 ラズベリー オトシブミ類に適用のある 登録農薬はないため、他 の害虫防除による併殺効
コガネムシ類	アオドウガネ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 アオドウガネ ●コガネムシの一種で年1回の発生、幼虫で 越冬し、成虫は6月~9月に出現するが、食 害は7月~8月の盛夏に目立つ。 ●捕殺又は農薬散布により防除するが、外部 から飛来する場合、効果は現れにくい。	カキ、クリ、ブドウ、 サクラ、ヤナギ、ナシ、 アメリカリョウブ、ハギ、 クヌギ、コナラ、フジ、 ネムノキ、モモ (コガネムシ類)
ヘリグロテントウノミハムシ		■ 越冬成虫が4月中旬から新葉の葉裏を食害、産卵するため、食痕が茶変し、景観を損ねる。 ■ 幼虫は葉肉内に潜入するため、農薬散布による幼虫の駆除は難しく、越冬成虫が出現、加害する4月中旬~5月上旬の散布が効果的である。	ヒイラギモクセイ、 キンモクセイ、ヒイラギ、 ギンモクセイ、イボタノキ マツグリーン液剤2 [ヒイラギモクセイ] ベニカXファインスプレー [ヒイラギモクセイ]
ヤナギルリハムシ		●ヤナギ類の重要害虫で、幼虫・成虫ともに 葉を食害し、多発すると樹は丸坊主になり、 樹勢が衰えるとともに美観を損ねる。 ●成虫は、早朝かタ方、樹の下に白い布を広 げて樹を急に揺すると落下するので、たやす く集めることができるが、多発の場合、農薬散 布により防除する。	ドロノキ、ポブラ、 シダレヤナギ、 ネコヤナギ、 イヌコリヤナギ 適用のある登録農薬はないため、他の害虫防除に よる併殺効果に委ねる。





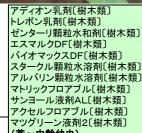












※ケムシ類:チョウ目のカレハガ科、シャチホコガ科、ドクガ科、ヒトリガ 科、マダラガ科、メイガ科、ヤガ科、ヤママユガ科に属し、葉を食害する 幼虫

(若~中齡幼虫) デミリン水和剤[樹木類]

シデコブシ

6 7 8 9 10 11 12 コブシ、モクレン、

(トサカフトメイガ)

●年1回の発生で、食害期間は短いが、成長 チ類に適用のある登録農 とともに食害量は増大し、多発すると木を丸

坊主にする。 ●群生している若齢幼虫時に葉ごと摘除する のが有効であるが、分散したら農薬散布が必 要となる。

コブシ類に発生するハバ 薬はないため、他の害虫 防除による併殺効果に委



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 サクラ類、ナナカマド

●幼虫は集合性が強く、老齢になるまで、常 に巣に群生し、食害後は葉脈と大量の虫糞が、虫防除による併殺効果に 巣内に残る。

●発生初期から巣網は目立つので、見つけ 次第、巣ごと除去して処分するのが確実であ

サクラ類等に発生するハ バチ類に適用のある登録 農薬はないため、他の害 委ねる。



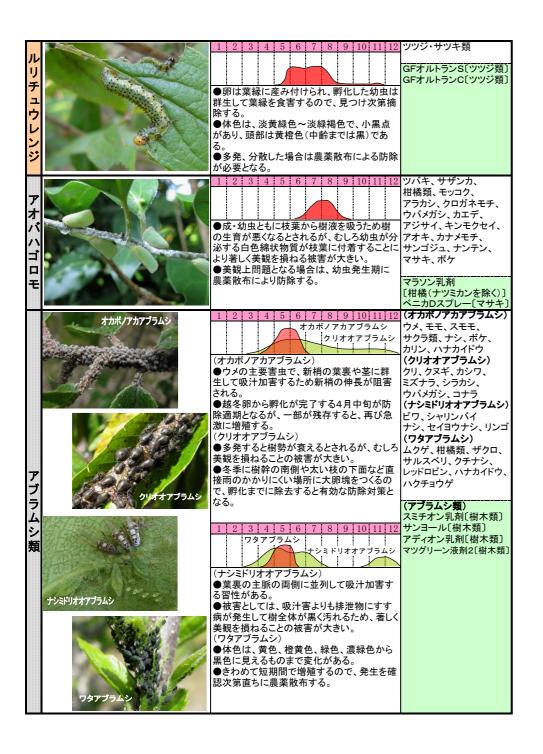
6 7 8 9 10 11 12 アカマツ、クロマツ、ゴヨウマツ、

ストローブマツ、ヒマラヤスギ

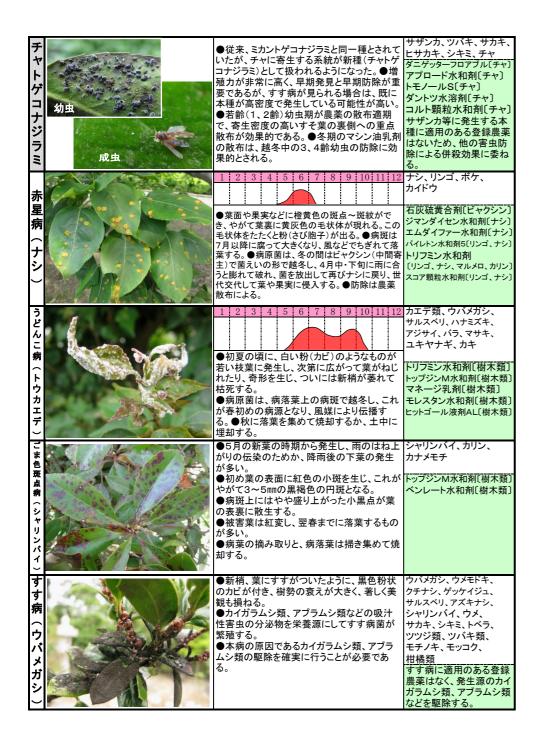
(ハバチ類)

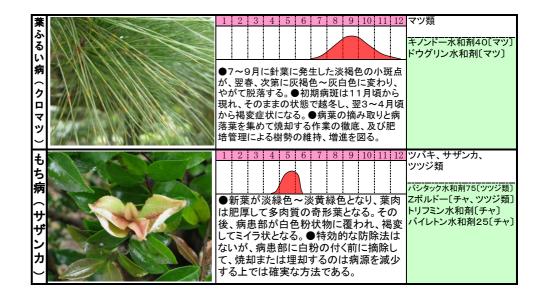
●若齢幼虫に傷つけられた葉は褐色になって スミパイン乳剤〔マツ類〕 縮れて残るが、やや成長すると葉を全部食べ てしまうので、多発した枝は丸坊主にされてし デミリン水和剤[マツ類]

●大発生すると短期間のうちに葉を食い尽く すので、若齢幼虫期の農薬散布が効果的で (ハバチ類(若~中齢幼虫))









- ◆本資料は、愛知県植木センターの調査研究事業による調査結果をもとに、文献等で補足して作成したものです。
- ◆病害虫の発生時期や被害の程度等については、その年の気候等により大きく異なりますので、ご承知ください。
- ◆病害虫名欄の水色は甲虫目(鞘翅目)、黄色はチョウ目(鱗翅目)、ベージュ色はハチ目(膜翅目)、灰色は カメムシ目(半翅目)に属する害虫で、白色は病気です。

農薬について

- ※農薬散布にあたっては、農薬取締法に基づいて登録された対象の樹木に適用のある農薬を使用しなければなりません。
- ※農薬は、登録内容が変更、追加、削除されることがあり、商品によって登録内容が異なる場合もありますので、農薬の実際の取り扱いに際しては、その都度、使用する製品のラベル等に記載されている取り扱い注意 事項・使用方法を必ずご確認の上ご使用下さい。
- ※記載した農薬以外にも適用のある農薬があります。環境に配慮して低毒性農薬の使用を心がけてください。 ※樹木類の品種によっては、薬害が生じる恐れがありますので、ご注意下さい。
- ※記載した農薬は、平成24年11月2日現在の登録状況を反映しています。

愛知県植木センター 平成24年11月作成